

TSA

TOBA SUPER AQUARIUM

No.84 WINTER 2023

特集

ラッコ飼育40周年

TSA 特別講座

動物園と進めるネコ科動物の繁殖研究

楠田 哲士

地球で遊ぼう！

木の楽器を鳴らそう♪

岩見 賢太

鳥羽水族館

ISSN 0916-9725

ラッコ飼育40周年

飼育研究部 石原 良浩



まあたらしい水槽でのんびり昼寝する初代ラッコたち

昭和58年（1983年）10月3日、鳥羽水族館にはるばるアラスカから4頭のラッコたちが仲間入りしました。今から40年も前のことです、というより40年も経ってしまったというのが正直なところです。

思い起こせば40年前のある日のことです。至急館長室に来るようにと連絡があり、不安な気持ちで赴くとそこには当時の上司たちが勢揃いしていました。すると館長から「ラッコが入ってくるから古田係長（元館長）と二人で担当として受け入れ準備をするように」と。思わず、えっ！わたしですか？ところでラッコって何ですか？と聞き返したことを今でも覚えています。入社3年目の私にとって、確か小学校の図書室に『いたずらラッコのロッコ』という本を見たことがある（読んでいない！）くらいの記憶しかなくそれが動物なのかさえわかっていませんでした。

ラッコって何？

ラッコは食肉目イタチ科カワウソ亜科に属するカワウソの仲間、チシマラッコ、アラスカラッコ、カリフォルニアラッコの3亜種に分類されています。北海道から北アメリカ西海岸までの太平洋北部沿岸に生息し、海藻



ラッコ専用に使われたオーシャンホール

が繁殖する海域においてはそこに生息する生物の多様性や豊かさを保つための重要な存在。キーストーン種とされています。かつては毛皮目当ての乱獲で絶滅寸前まで追い込まれましたが、手厚い保護のおかげで順調に回復してきたという歴史があります。

日本でのラッコの飼育は、昭和57年（1982年）静岡県伊豆・三津シーパラダイスで始まり

ましたが、一般公開は当館と一緒の昭和58年の10月からとなります。鳥羽水族館では当初シアトル水族館で生まれたラッコが入館する予定でしたが、残念なことに当館に来る予定であったラッコが死亡してしまったため急遽アラスカから野生ラッコが入館することになったのです。

何もかもが手探り状態で…

当館にやってきたオス1頭、メス3頭のラッコたち。写真でしか実物のラッコを見たことがない私たちにとってどんな生きものなのか全く見当が付きませんでした。ところが、初めて見る実物のラッコはとても可愛く、私たちの足元

に寄ってくるなどその人懐っこさには大変驚かされました。一般公募によりエミ、モコモコ、プック、コタロウと名付けられ、少しばかりの文献とシアトル水族館からのわずかな資料を参考に手探りで飼育が始まったものの、やはり一筋縄ではいきませんでした。到着して早々長旅の疲れから体調を崩す個体が続く、何が正解かわからないまま治療に苦労したこと。毎日大量に抜け替わる毛にろ過設備が追い付かず対応に苦慮したところ。また、ラッコは大食漢でとにかく食べ続けなさいけないというところで、毎日早朝から夜遅くまで世話に追われる日々が続きました。

想定外の出産

1984年2月23日の朝、いつも通りプールに向かうとわが目を疑う出来事が…。入館早々体調を崩したメスのうちの1頭、プックが出産していたのです。プックは入館時の治療により妊娠の可能性はなくなるといわれていたのですが、まさに青天の霹靂でした。ラッコの飼育法すら確立されていない手探り状態の中での出来事にこれから何をしたいやら頭の中は真っ白になりました。ラッコの赤ちゃんは、のちにチャチャと名付けられ、母親プックの熱心な子育てのおかげで元気にすくすくと育ちました。私たちは日本初となるラッコの誕生に何としても育ってほしいとの思いから58日間にもわたって24時間観察を行い、休みもなく肉体的にもとても大変でした。しかし、新たな命の誕生とわが身を顧みずすべての愛情を赤ちゃんにそそぐ母親の育児、赤ちゃんラッコの日々の成長を目の当たりにして毎日が感動の連続で疲れなどほとんど感じていませんでした。



ラッコ専用プール



人懐っこいコタロウ



毎日たくさんの餌が必要



大食漢なラッコたち



20 年ぶりの誕生 (メイ)



チャチャを大切に扱うブツク



日本初出産

出生個体たちの繁殖参加率は低下し、野生からの搬入もストップしたことにより国内の飼育頭数は減少の一途をたどりました。そこで鳥羽水族館がリーダーとなり繁殖検討委員会を毎年開催し、飼育数を増やすべく対策を検討してきましたが、減少に歯止めをかけることはできませんでした。

これから

私たちはこれまで飼育してきたラッコたちからとても多くのことを学ばせてもらってきました。それぞれとても個性的で魅力あふれる彼らのことは今でも鮮明に覚えており、これからも忘れることはないと思います。2023年現在、国内の飼育ラッコは鳥羽水族館のメイ（19歳メス）、キラ（15歳メス）とマリンワールド海の中道のリロ（16歳オス）の3頭となっていてしまい、このままでは近い将来日本の水族館からラッコが姿を消すかもしれません。しかし私たち水族館や動物園は命ある資料（動物）を飼育展示する「命の博物館」としてすべての生きものが安

当時盛り上がりを見せていたラッコ人気を空前のラッコブームに加速させ、それまでの年間70〜80万人だった鳥羽水族館の入場者数を200万人以上に押し上げたのです。

そんな慌ただしい中、ラッコたちは持ち前の器用さ、知能の高さゆえの応用力に加え、旺盛な好奇心に根気良さが相まって新設されたプールもわずか2年ほどで壊されるなど常に私たちの想定をはるかに超えてくるのがラッコという動物だと思い知らされてきました。しかし、そんな日々を重ねるにつれ、個々の思考や行動など個性を理解できるようになりラッコ



ラッコブームで毎日長蛇の列が



ラッコプール前の様子



コタロウに削られたプールの壁

という動物の魅力に魅かれはまっっていく自分がいました。

20 年ぶりの誕生

鳥羽水族館では日本初となる赤ちゃんラッコ「チャチャ」誕生以後赤ちゃんに恵まれませんでした。コタロウはもとより、神戸市立須磨海浜水族園よりブリーディングローンでオスのチャーリーを受け入れ繁殖を試みましたが結果にながりませんでした。そして、エミ、モコモコ、ブツクたちも高齢となり、新たにリンクス、ポテトを迎え入れたものの、相性が合わず7年もの間まったく進展がありませんでした。ところがリンクスを頑

全で快適に暮らしていけるよう自然環境の保護の必要性や命の大切さができるだけ多くの人々に伝えていく必要があります。それには言葉や文字での説明

も大切ですが、なにより生き生きとした動物たちの姿を直接見て、興味を持っていただくことがいちばんだと考えています。以前のラッコブームから長い期間忘れ去られた存在になつていった印象があるラッコですが、それは私たちの情報発信不足が原因だったかもしれません。ところが、昨今のSNSの発展などにより第2次ラッコブームと言われるほどラッコが人気となつていきます。今後ラッコに限らずすべての動物たちに興味を持ち続けていただけるよう努



現在のメイとキラ



SNS 用に撮影



第2次ラッコブーム？

一方、国内の状況も当初は順調に繁殖が進み、1994年には28園館で122頭（うち半数以上が繁殖個体）まで増加しましたが、以降世代交代が進むにつれ飼育下

に繁殖が進み、1994年には28園館で122頭（うち半数以上が繁殖個体）まで増加しましたが、以降世代交代が進むにつれ飼育下

力を続けていくことを私たちの使命として頑張っていきたいと思

なに拒絶していたポテトが新たに迎え入れたオスのドンをすんなり受け入れたのでした。しかし残念ながらドンとの間に2回、ドン亡き後リンクスとの間に1回出産しましたが、3回連続での死産となりました。そこで私たちはこれまでの飼育管理方法をすべて見直すことにし、ポテトへの思い切った食事制限と体重管理を徹底したところ、そのかいあっていうかポテトの今まで以上の頑張りがあってやっとのことでメイが誕生したのでした。実に20年ぶりとなる赤ちゃんラッコの誕生です。その後ポテトの献身的な育児によりメイはすくすくと成長し、ロイズとのペアリングでさらなる繁殖を目指しましたが、ロイズの突然の死亡により事実上日本国内での繁殖はできなくなりました。



ゾウリエビとセミエビ



イセエビ



町のシンボル イセエビ大王

鳥羽水族館から30 kmほど南下すると、私の生まれ育った町、志摩市浜島町があります。毎年6月には伊勢えび祭が開催され、地元のみならず周辺地域の人々や観光客でそれはそれは賑わいます。

暑すぎた夏がようやく終わりを告げた10月初旬、今年もイセエビ漁が始まりました。思い立ったが吉日、まずは日の出直後の漁港へ向かいました。エビ網（刺し網）にかかるとはイセエビだけではありません。ブダイやカワハギ、タカノハダイ、なかなかお目にかかれないセミエビやゾウリエビなどたくさんの生きものを見ることができました。

魚市場での競りが終わり、船上での網さばきを見た後は、ウミネコの群れを眺めながら昔よく遊んだ磯と浜辺を散策することになりました。最初の目的地は大矢取島です。地層がむき出しになった格好いい島で、かつては干潮時に地続きになりワクワクしながら探検したのですが、今では堤防で繋がりにくいです。

続いて、祭の会場になっている大矢浜（砂浜）へ。かつてここには網干場があり、網から外されたトラザメやネコザ

メ、タコマクラなどよく遊びましたが、全く見当たりません。干潮時に消波ブロックの前に出現する道があり、すぐ隣の釜崎の浜（玉砂利の浜）と繋がっていたのですが、いそもん（イシダタミなどの貝の地方名）採りに夢中になりすぎて満潮に気付かず、消波ブロックの中から出られなくなり、漁師のおじさんに助けられ命拾いをしたのは苦い思い出です。

人工海浜として二つの浜が繋がってから早30年以上。生物相も少し変わり、砂浜部分ではかつて見られなかったようなスナガニの巣と掘り出した無数の砂団子が見られました。新しい生きものが根付いた一方で、片隅に残る玉砂利部分では以前と変わらずたくさんの種類の貝を探ることができました。

この町に生まれて良かったなあ、故郷愛が更に深まった秋の休日は、日頃の運動不足と、遠足前の睡眠不足で帰る頃にはへ口状態に。帰宅後爆睡したのは言うまでもありません。

営業第一部 井上 まゆこ



朝の船だまりの情景



浜辺で見つけた貝殻



スナガニの巣と無数の砂団子



大矢取島

三重の水辺紀行

mie-no-mizubekikou

— 幼き日の記憶を辿る —

自然あふれる三重の水辺を巡る



やっと撮影できたベニシオマネキのメス。真っ赤な甲羅がとても美しい。

●第79回● 沖縄海岸探検Ⅱ

飼育研究部 若林 郁夫

去年の秋、私は南の海の海岸生物観察のため沖縄県へ出かけたことを本誌82号で紹介しました。しかしその時の探検は、お目当てのミナミスナガニやオカヤドカリには出会えなかったものの、台風接近の影響で雨に降られることが多く、今一つ成果が少なかったことをお伝えしました。今回、その時のリベンジを果たすため、私は再び沖縄の磯や干潟を探検する旅を計画したのでした。

今年も出発直前に台風が接近したりでやきもきしましたが、到着した10月5日夕方の沖縄の天候はまずまずで、前回よりいい条件での探検が期待されました。さっそく私はレンタカーに乗り込み、出会えそうな生きものたちを想像しながらワクワクドキドキ名護市方面へと出発しました。途中の砂浜でスナガニ類の採集調査もやりながら、翌朝訪ねる磯を目指しました。そして今回も金欠旅行のため、1日目はもちろん車中泊です。地元料理のお惣菜とオリオンビール（沖縄の地ビール）をスーパーで購入し、車の中で沖縄の味を楽しんだりしながら、朝が来るのを待ったのでした。

まだ暗い5時20分頃、潮が一番引く時刻の少し前に磯に降り立った私は、岩場や周辺の浅瀬を懐中電灯で照らしながら、生きものの姿を探してみました。岩の表面を見ると、超大型のヒザラガイ、



ヒザラガイと餃子のようなオハグロガキ



これが沖縄の磯

それから餃子のようなオハグロガキがたくさん付着していました。三重県の磯のような海藻はなく、その代わりにサンゴ類がボツボツと岩にはりついています。その後も探し続けると、10個ほどの巻貝が一カ所に集まっているのを見つけました。じっと見ていると巻貝はちょこちょこと移動しており、どうやら中にヤドカリが入っていることは間違いなさそうです。波のないところで貝殻の口を上にしてヤドカリが出てくるのを待ってみます。やがて姿を現したのは、私がこれまで見たことのない色鮮やかなヤドカリで、眼柄が蛍光色の青色とオレンジ色、表面がツルツとしたハサミをもっています。図鑑で調べてみると、スベスベサンゴヤドカリという種類の様です。周囲が明るくなるにつれ見つかると生きものも増え、見たことのないヒトデやウ

ニ、さらに3種類のヤドカリも追加で見つけることができました。沖縄の磯のヤドカリたちは美しい色彩のものが多く、何だか性格も陽気そうに感じられました。短い観察時間でしたが、三重県とは違う沖縄独特の磯の様子を少し感じることができたのでした。

その後はさらに車を北へと走らせ、今度は干潟の生きもの観察です。たまたま見つけた干潟に降りてみると、ヒルギ類いわゆるマングローブが所々に生えていて、いかにも南国の干潟らしい風景が広がっていました。干潟の表面をじっと見てみると、たくさん穴が開いており、やがて小さなカニたちがあちらこちらから出てくるのが分かりました。しかしこちらが少しでも動くものなら、カニたちはいっせいに穴の中へと隠れてしまいます。きれいなカニを見

つけたため、そろーっとしゃがみ込み、再びカニが出てくるのを待ってみました。カニは体を少し出すのですが、私の姿をみつけると、またサツと隠れてしまいます。それでも我慢を続けて10分程、何とか美しいカニの全身を写真に収めることができました。ベニシオマネキのメスの様です。大きな赤いハサミをもったオスも見かけたのですが、残念ながらいくらか粘っても近くで撮影することができませんでした。ここでは他にも大きな白いハサミをもったオキナワハクセンシオマネキにも出会うことができ、ちょっとだけですが沖縄の干潟の様子も覗くことができたのでした。

その後、私はヤンバルクイナが息すると言われる沖縄本島北部の方まで足を延ばし、ヒカゲヘゴが生えた原生林やマングローブが発達した河口、白い砂浜など色々な沖縄の美しい自然を見て回ることができました。しかし残念な光景にも出くわしました。観光のためきれいに維持された自然があちらこちらにある一方、人があまり訪れないような海岸には多量のプラスチックごみが打ち上っているのを度々見かけることがありました。沖縄にもこんな場所があることにビックリすると同時に、人間の便利だ、簡単だ、安いから、といったわがままな発想や行為が、沖縄の美しく多様な自然環境をもむしはんでいる現状を知ることになりました。私の2度目の沖縄海岸探検はちょっと複雑な気持ちで終わることとなったのでした。地球温暖化に海洋プラスチックごみ、私たちは今すぐ取り組みなければなりません。



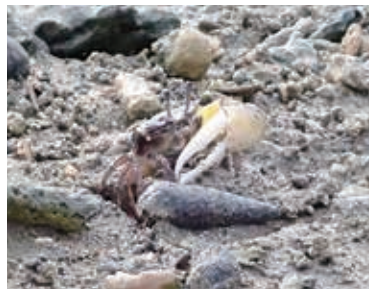
スベスベサンゴヤドカリ



ツマキヨコバサミ



ツマジロサンゴヤドカリ



ハクセンシオマネキのオス



えっ沖縄？ ゴミだらけの砂浜



05



06



01



02

あっはれ!

キーワード水族館

【さいしゅうかい 最終回】

ふりかえるの巻

あんな話題やこんなネタいろいろありました。
今回は最終回。
これまでの「ふり返って」みましょう!



07



08



03



04



13



14



09



10



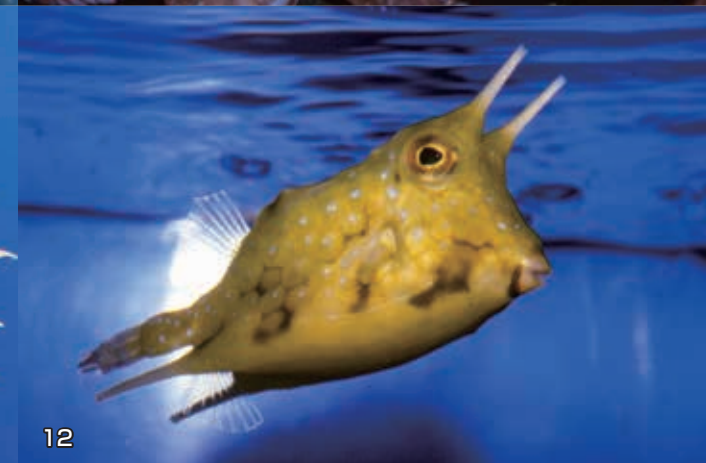
15



16



11



12

13: ブルーマロン
15: ハリセンボン

14: キンチャクガニ
16: チンアナゴ

09: アフリカマナティー
11: ミノカサゴ

10: ミスダコ
12: コンゴウフグ

水族館の歴史をふりかえる

これまで「あっぱれ！キーワード水族館」では、館内の観覧ゾーンや生きものの種類ごとといったような分け方ではなく、さまざまなキーワード（テーマ）をもとにして生きものたちを紹介してきました。それは、目や口、足といった「体の部位」や、食べる、眠るといった「動きや行動」をもとにしたものでした。

さて、最後のキーワードは「ふりかえる」でお話をすすめていこうと思います。

ふりかえてみると、鳥羽水族館は1955年（昭和30年）の開館から、今年2023年で68周年を迎えました。この68年という長い年月で、私たち鳥羽水族館のスタッフは、たくさんの生きものを取扱い、多くの飼育記録を残してきました。その中には、世界初や日本初であった出来事や記録がありました。中でも注目されたのは、スナメリの初繁殖やラッコの赤ちゃん誕生といった出来事です。ちょうど2023年は「スナメリ飼育60周年」「ラッコ飼育40周年」という当

館にとって節目の年であり、それぞれに記念イベントが行われ、我々飼育スタッフにとっても過去の記録や資料を読み返す（ふりかえる）良い機会となりました。

水族館で探してみよう

皆さんは水族館に行ったとき、どんなふうに見学をしていますか？多くの皆さんは「〇〇が見たい！」「癒やされたい！」というような気持ちで見学されていることと思います。そこで、ちょっと違う視点で館内を回ってもらおうと普段とは違う発見をすることができそうです。皆さんが気になったキーワードで生きものたちを探索してみてくださいね。きっと面白い発見や出会いがあるはずです。いやあ、生きものってじつにあっぱれ！なのです。

それでは、このコーナーはこれにておしまいとさせていただきます。次回からは、新たな切り口で鳥羽水族館の生きものたちを紹介するコーナーが始まります。どうぞお楽しみに！

動物園と進めるネコ科動物の繁殖研究 —飼育下繁殖から生息域外保全へ—

岐阜大学応用生物科学部 教授／動物園生物学研究センター長 楠田 哲士

野生スナドリネコの危機

国内外の野生ネコ科動物の多くが絶滅の危機に瀕しており、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストでは、種レベルではネコ科の半数ほどが「危機（EN）」か「危急（VU）」の評価を受ける絶滅危惧種です。亜種や個体群のレベルでは、チーター、ライオン、ヒョウ、トラ、ベンガルヤマネコ、ピューマの中に、絶滅危惧の最高ランク「深刻な危機（CR）」のものが含まれます。

鳥羽水族館で飼育されているスナドリネコも「危急（VU）」と評価される絶滅危惧種です。IUCNによれば、スナドリネコは都市化や工業化による生息地破壊、密猟、地域住民との軋轢による報復駆除が続いているようです。生息域全体で過去15年間で30%以上もの個体数の減少があったことが報告され、現状では今後15年間でさらに30%減少すると見込まれています。このように、野生では深刻な脅威に直面しているため、生息域外での飼育下個体群の維持管理がさらに重要と考えられています。

難しい繁殖と動物園の繁殖研究

しかし、世界の飼育個体数は多くはない一方で、繁殖成功率も非常に低いのが現状です。大きな要因として、かだと必然的に同居させる機会が少なくなり、様々な取り組みを進める中、2023年2月に初めて交尾が確認できた。その後、糞中の性ホルモン濃度の変化から排卵を推定でき、王国も私も学生も非常に喜んだことを鮮明に覚えています。続いて、別のホルモンからの妊娠判定を行いました。が、残念ながら妊娠の可能性は低いことが分かり、その後、出産もありませんでした。飼育管理や繁殖研究は少しずつ進展していますが、今のところ繁殖成功には至っていません。こうした終わりのない積み重ねが重要なことは当然ですが、個体も歳を取っていくため次なる手段が計画されています。この稿が公開される頃は、次の計画が動き出している頃でしょうか。

日本の希少種も

スナドリネコと同じ *Pionomimus* 属に分類されるネコ科動物が日本にもいます。日本に生息するネコ科はイリオモテヤマネコ（西表島）とツシマヤマネコ（対馬）の2種類ですが、同じ属に分類されるため、スナドリネコに近い種です。環境省のレッドリストで、ともに最も絶滅の危険性の高いカテゴリーの絶滅危惧IA類です。ツシマヤマネコは、環境省の保護増殖事業の一環として生

て、雌雄同居時に闘争が起こる場合が多く、繁殖が難しいとされています。そのような種にあって、鳥羽水族館の「奇跡の森」のスナドリネコのサニーとパールは極めて順調に繁殖が続く奇跡のペアです※1。

私たちは、神戸どうぶつ王国のペアの繁殖を成功させるため、繁殖生理の共同研究を進めています（図1）。2018年から雌雄の排泄糞を継続して採取し、糞中の性ホルモン濃度の変化を追跡し続けています。2023年からは鳥羽水族館とも研究を始めました。これによって雌では発情（卵巣内の卵胞発育状況）や排卵、妊娠の状況などを間接的に知ることができ、スナドリネコは、雌雄の闘争行動が激しいことがほとんどで（王国のペアは例にもれずそうですが、鳥羽のペアは大丈夫なようです）、行動変化と性ホルモン濃度変化の関係をみていくことで、

息域外保全が行われ、動物園での繁殖計画が進められています。私たちは日本動物園水族館協会との共同研究として、繁殖生理分野を担当しています。自然な発情・排卵・妊娠の状況や人工的な発情排卵誘起と人工授精時の状態を、糞中の性ホルモン濃度動態から非侵襲的に調べ、繁殖を陰で支える研究をしています※2（図2）。先述のスナドリネコの研究データもいかにされます。

繁殖研究のクラウドファンに挑戦

私たちは、様々なネコ科を対象に動物園とこのような繁殖の管理にいかすことを目指した研究を行っています※3。しかし、この研究には多大な経費、労力、時間がかかることに加え、近年の物価や電気代の高騰は非常に大きな障害です。そもそも岐阜大学では、大学から配分される研究室運営費が微々たるもので、研究に回せる経費はほとんどありません。そこで、この研究や動物園を皆様にぜひ応援していただきたく、11月からクラウドファンディングに挑戦中です（図3）。一緒にネコ科動物たちの未来をつなげる仲間になっていただければ幸いです。

参考文献（これらの文献もぜひご覧ください）

- ※1…三谷伸也。2022. スナドリネコの繁殖について。TSA 82：2-5。
- ※2…楠田哲士、足立 樹。2023. 動物園と進めるツシマヤマネコの繁殖生理研究—飼育下繁殖の推進のために。生物の科学 遺伝 77(5)：352-357。https://www1.gifu-u.ac.jp/~lar/contents/lar_article/img/iden-yamaneko.pdf
- ※3…楠田哲士。2021. 動物園における絶滅危惧種の繁殖—繁殖生理を調べて飼育に生かす。生物の科学 遺伝 75(2)：136-145。https://www1.gifu-u.ac.jp/~lar/contents/lar_article/img/iden2021-3.pdf



楠田 哲士 Satoshi Kusuda

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学 応用生物科学部 動物繁殖研究室 教授
日本大学生物資源科学部卒業、岐阜大学大学院修了、博士（農学）。日本学術振興会特別研究員などを経て2008年から岐阜大学応用生物科学部。専門は動物保全繁殖学、動物園学。公益社団法人日本動物園水族館協会生物多様性委員会外部委員、日本野生動物医学会 理事、野生動物保全繁殖研究会 理事などを務める。哺乳類、鳥類、爬虫類を対象に飼育下繁殖の推進にむけて、動物園・水族館と繁殖生理研究を行っている。主著に『動物園学入門』（朝倉書店）、『神の鳥ライチョウの生態と保全』（緑書房）、『岐阜県の動物』（岐阜新聞社）など。



図3 写真は研究対象のネコ科動物の一部。2023年11月29日から2024年2月27日までREADYFORでクラウドファンディングに挑戦中。



図2 名古屋市東山動物園で生まれたツシマヤマネコ“したる”（2023年4月23日生まれ、生後10日齢）。母親の糞中ホルモン分析により排卵の確認と妊娠判定に成功。



図1 神戸どうぶつ王国のスナドリネコの雌“セーラ”。繁殖を目指して糞中ホルモン濃度動態から発情と排卵の状況を調査中。

岩見賢太（木製楽器作製家）

アジア諸国を放浪した後、オリジナル木製アサラトを創作し、各地で販売を始める。
2017年、奈良県高等技術専門学校・家具工芸科を修了後、吉野林業の営みと吉野材に惹かれ吉野町に移住。
現在は楽器作りに特化した木工所「木の音labKIWAMI」を運営。
併せて「ドラムサークル・ぎざざりすむ」では集団即興音楽体験の提供を行うなど、様々なアプローチによって音楽の敷居をとっぴらうべく事業を展開している。



図5 吉野の植林

キットから自分で作る木の楽器
自宅で作れるキットを製作し、各種イベント等で販売しています（『ガッキット』現在ネット販売の準備中）（図3）。初めは手触りがザラザラしていた木も、やすりを使って表面を整えるとスベスベになり、仕上げの磨きをかけることでツルツルに変化していく。また、杉の木材は柔らかいので、紙やすりでも簡単に形

鳴らしたくなる楽器とは
実際に楽器を作った分かったのは、完成した時に鳴らす瞬間がたまらなくワクワクする！ということでした。その時に「下手だから鳴らさないでおこう」なんて我慢できるでしょうか。せつかく作ったのだから、もちろん鳴らしたくなるものです。自分で楽器を作るとは、楽器を鳴らすことにそのままつながっていきます。

か？僕は、この思い込み＝敷居をとっぴらいたいのです。誰かに聴かせるためじゃなく、誰かに見せるためでもなく、まずはそこにいる自分自身が文字通り、音を奏しむこと。または、楽しむために音を出す。それが音楽への入り口だと思うのです。「同じ阿呆なら踊らにやそんな」ならぬ「鳴らさにやそんな」です。

杉や桧の木を使う理由

三重県名張市で生まれ育った僕が、吉野町に移り住むことになったのは、昔から木が育てられていて環境に近いところモノづくりがしたかったからです（図5）。移住して木工をしていると林業について知る機会が増えるとともに、それまで当たり前のものとして見ていた森林の風景が、違ってみえるようになりました。戦後、日本中に広がった杉・桧の植林。その一本いっぽんが人の手で植えられたものです。一方で、現代の私たちは昔ほど杉・桧を使わなくなっています。それで手入れが不足した植林では生物多様性が失われ、時に山崩れや様々な災害となつて私たちの返ってきいてるのです。まるで、構ってもらえず愛情が不足したまま育った木たちからのメッセージであるかのように。だから、できるだけ杉や桧を使っていきたいと思っています。

木製楽器作製家

岩見賢太さん

43

木の楽器を鳴らそう♪

地球で
Let's enjoy on the earth
遊ぼう！

僕の住む吉野町は、奈良県の南にある吉野地方の中の一町です。吉野地方は日本でも最も古くから続く造林地で、約500年前の記録が残っています。造林とは、樹木を植えたり、人工林を作ったりすること。または、既にある森林を整えたり、手入れを行うことです。そんな場所では僕は、木の楽器を作っています。

●自然な温もりがある
木材が湿気や温度を調整するため、冬でも冷たくなりにくい。
●音色がやさしい
木材は音を適度に反響させるため、人の耳にやさしく、心地よさを感じる。
●手触りがやわらかい
表面が整えられた木材はスベスベして、気持ちがいい。

楽器作りを始めるきっかけ
20代から30代前半の頃に、気の向くまま海外を旅していました。知り合いもおらず言葉も通じない中、現地の人と自分をつないでくれたのが、楽器です。旅のお供に小さな楽器を練習し続けていたら、現地の人が興味をもって近づいてくるようなことが度々起こったのです。その体験から楽器は言語の壁を越えるツールなんだと実感し、ワクワクが止まりませんでした。小さい頃から工作好きだったことと合さり、気が付けば楽器を自分で作り始めていました。

なぜ木をつかうの？

旅を通して使っていたのはアサラトという、西アフリカ生まれの木の実でできた楽器です。これを身の回りにあった木片で作ることから、僕の楽器づくりは始まりました（図1）。手道具でも加工できるのに、ある程度堅くて壊れにくい。

楽器演奏で脳が元気に

音楽を聴くことは、僕たちの脳の広い範囲を活性化させ、免疫力や集中力の向上やリラクゼーション効果をもたらすことが、近年の研究機関の報告によって明らかに

あります（図2）。自然の香りがするなど、さまざまな魅力があります（図2）。



図2 木の楽器（スリットドラム）



図1 木で作ったアサラ



図4 ガッキットを使ったワークショップ



図3 木の楽器（ガッキット完成品見本）

第20回 ハス

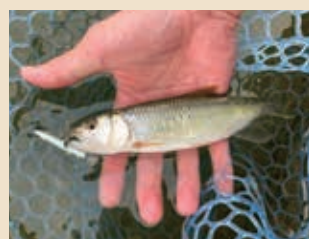
飼育研究部 辻 晴仁



ハス

肉食魚と聞くとブラックバスやブルーギルといった外来生物の悪いイメージを抱く人が多いかもしれませんが、そもそも日本にはたくさん肉食魚が居ます。その中でも「ハス」は古来より日本に生息するれっきとした固有種です。

6月下旬、今回はそんなハスを探す旅に出ました。本種は琵琶湖水系に生息する淡水魚なので自動的に車をそちらへ向けることにしました。到着して早々に、あー広い！と心が折れそうになります。読者様の中にどれだけ釣りをする方が居るかわかりませんが、琵琶湖など広大なフィールドから魚を探すということは非常に難しいことで、砂漠の中から落とした指輪を探し当てるような感覚といえはイメージできるでしょうか。その確率を上げる作業が習性を知ることです。ハスは琵琶湖北湖と流入河川を行ったり来たりする習性があるらしく今回はその河口域近辺に絞ることにしました。ということで長靴を履いて湖畔を歩き回ります。するとある場所でも長い臀鰭を持つ魚を湖底に見かけました。おそらくハスです。彼らは主に稚鮎などを捕食する魚なので、すぐさま小魚をモチーフにした



メスのハスは尻鰭が短い。



琵琶湖に流入する河川。釣りはせず探索するだけで楽しい。



湾曲した独特な口と面構えが何とも言えない。地元では「ケタバス」とも呼ばれ、親しまれている魚の1つ。

ミノーというルアーを投げ入れます。ところが全く見向きもしてくれません。おかしいなと思いながら湖面を観察しているとハスの魚群が通っていきます。魚はいることがわかったのですね。か釣る手段を模索します。そこで別のタイプのミノーが気になったので付け替えてみます。するといきなりハスが食らい付いて呆気なく捕獲となったのです。少しコアな話になりますが、ルアーは動かす時に周りの水を押す力、波動が発生します。今回はその波動が弱から強のルアーに変えた瞬間にハスの反応が一気に変わったのでした。これは彼らが水の動きを捉える身体器官である側線が関係しており、強い水流変化に反応する習性を持っていたからだと推測することができました。

またこちらのハスですが、琵琶湖水系が原産であるにもかかわらず、他の河川でも生息が確認されています。これは琵琶湖産の鮎を各河川に放流する事業があり、その中に本種も混入したからだと考えられています。

それにしても驚くようにしゃくれたアゴの威風堂々とした佇まいに感服させられた初夏の夕方でした。

第9回

人魚姫 セレナとの日々

飼育研究部 半田 由佳理

セレナとの「ちょっとした」かけ引き

みなさんは好きな食べ物を最初に食べますか？それとも最後ですか？私の好きな食べ物は唐揚げやチーズ、生クリームなど。好きなものはひとくち残しておいて最後に食べます。では、セレナはどうなのでしょう？

現在セレナに与えている餌は海草（アマモなど）と野菜のロメインレタスです。ジュゴンには草食動物なので肉や魚は一切食べません。本来ならば野生のジュゴンが食べているものと同じ海草だけをあげたいところですが、天候不良などで海草が入手できないこともあります。そこで、餌の海草が不足した時の代用食とし

てロメインレタスを使っているのです。セレナには普段からロメインレタスに慣れさせてもらっているため、毎日3kg〜5kgほど与えています。セレナの好みの順番としては海草が一番でロメインレタスが最下位。いつも残さず食べてもらっているため、少し苦労をしているのです。じつはセレナ、好きなものは最初に食べたい派のようで、海草とロメインレタスを同時に与えると当然ながら先に海草を食べ、ロメインレタスを残してしまします。そのため、最初にロメインレタス、それを食べた後に海草を与えるとといった順番にしています。お腹が空いている時はロメインレタスを残さずに食べてくれるのですが、完食が続いているからと与える量を少し増やすと増やした分だけ残します。ひどいときには全く食べなくなること。また、食欲旺盛で食べるペースが早いからアマモを増やそう！と海草を多く与えた翌日はだいたいロメインレタスを残すので、海草を増やしたことを少



海草をモリモリ食べるセレナ



ロメインレタスは食べる気なし(枕じゃないよ!!)

し後悔……。セレナは後から大好きな海草がもらえることを分かっているのですが、無理にロメインレタスを食べなくても平気なのです。そんなことから私たち担当者の中では「朝のロメインレタス食べた？」なんて会話をいつもしています。

ある時、海草が不足しそうなので代用食であるロメインレタスの割合を増やしました。最初はなかなか食べませんが、海草がないと分かると急に勢よく食べだします。そして、こんなこともありました。夕方に与

えたロメインレタスをいつまでたっても食べないので、もうこれでおしまい(海草はありませんよ)と水槽照明を消すと、諦めたのかその後すぐに食べたのです。その日セレナは最後まで海草を待っていたようです。

どうすればセレナが残さずにロメインレタスを食べてくれるのか、海草を与えるタイミングや量を上手く調整し、セレナの心を読みながら「ちょっとした」かけ引きをする毎日なのです。

獣医のきもち

【43】

ルルの換羽

飼育研究部 長谷川 一宏

ルルは1993年生まれで、30歳のメスのフンボルトペンギンです。このペンギンは鳥羽水族館では、7・8月にかけて全身の羽が生え変わります。これを換羽と言います。犬や猫の毛がわりは換毛とも言いますが、換羽は羽がわりとは言いえないようです。

鳥の換羽は、その暮らしの中で産卵や子育てと同じくらい大事な営みです。イギリスには、鳥の換羽のことだけを解説した参考書があります。換羽は英語でmoultと言います。哺乳類の毛がわりもmoultです。さらにエビやカニの脱皮もmoultと言うそうです。毛がわりや鳥の換羽と脱皮が同じ、というのは意外です。

さて鳥羽のフンボルトペンギンは、早い個体なら換羽の50日ほど前から、普段の1・5倍くらいの魚を食べるようになります。そして通常4キロくらいの体重は、5キロを越えるくらいになります。もし

て約2週間の換羽の間、ペンギンが食べるエサの量は日常の半分以下になります。4キロくらいだったペンギンの体重は、換羽の後それよりも少なくなります。

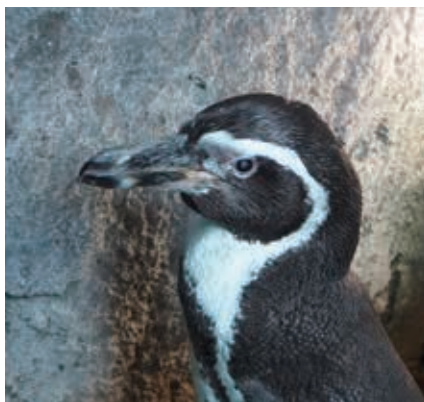
30歳のルルはペンギンの中では高齢です。そんなルルには、換羽は大仕事です。私たちは3つのポイントに注意しました。①他のペンギンと同じように7・8月に換羽が始まるか（高齢になると換羽の開始が遅くなるペンギンがいます）、②換羽の前に多くの魚を食べて、十分体重を増やすことができるか、③換羽でやせてしまった後に普段通りにエサを食べて、体力が回復するか、この3点です。

ルルの換羽が始まったのは9月18日で、かなり遅く心配しました。換羽が終わった後に涼しくなってしまうと、体力を失う可能性があるからです。その意味では、2023年の秋の暑さはルルに味方したかもしれません。また普段ひかえめなルルが、今回の換羽前には多くの魚を食べる体重が増えました。以前にはこの時期に十分な量のエサを食べず、換羽後に体力がなくなつて死んでしまった高齢のペンギンもいました。一方ルルは換羽の後もがんばって、いつもよりも多くのエサを食べています。

鳥羽にはルルより高齢のペンギンが1羽います。志摩マリンランドから来たメスのマリンで、ルルより1歳年上です。ルルとは対照的に、マリンは普段から

しっかりエサを食べて、8月15日に始まった換羽（若いペンギンに比べると遅いですが）も無事終わって、今も元気に暮らしています。

さてこれを書いているのは、ルルの換羽が終わった約1か月後なので、胸を張ってこれでルルは大丈夫、だとは言えません。ペンギン担当者の私にできるのは、注意深くルルの行動を観察して小さな変化を見落とさないようにすること、できるだけルルにエサを食べてもらうようにすることです。また獣医の私にできるのは、先輩担当者の言葉に耳を傾けて、必要なら早めに血液検査などを行って、さらに細かくルルの体調をチェックすることです。そのようにきちんとやるべきことをやって、できるだけ長くルルに元気でいてもらいたいと思います。



▲ルル（2023年11月）

第6回

伊勢志摩 プラプラ リサイクルの現場訪問

高林 賢介

今やほとんどの商品がプラスチック包装される時代になりました。皆さんもふだんからリサイクルされていると思いますが、さて、その後はどうなっているのかご存じでしょうか。よく知らなかった私は、まずは市の環境課でお話を伺ってきました。そこで

学んだのは、鳥羽市だけではごみの処理は終わらないということ。1市で大きな設備や処分場は持てません。そこで鳥羽、志摩、南伊勢の2市1町でエコセンターを共同運営し、回収はそれぞれの市が、リサイクルと焼却はエコセンターが行うよう分業化しているのです。そうなるエコセンターのお仕事に気になりますよね。ひとりでの視察もOKとお返事に甘えて、いざ大人の社会見学となりました。

山間のくねくね道を抜けるとまるで要塞のような建物が現れました。優しく迎えて頂いた所長からは、エコセンターの成り立ちや仕組みを詳しく伺いました。私なりにまとめるのと、持ち込まれたごみはできるだけ資源に変える、有価物は売る、排熱から得たエネルギーも電気に変える、そして埋め立てる残渣を減らす、

と全方位にわたリ手を打たれていました。所長が「すべてオープンで何も隠すようなところはないですよ」と笑顔でおっしゃられたのも印象的でした。

この地域の家庭からでたプラごみは、ペットボトル、発泡スチロール、その他プラの3種類に分けられてセンターにやってきます。ペットボトルはきれいなものを選び圧縮して、また別の再生工場へと運ばれていました。そしてこの10月にはサントリーと協定を結び、同センターに集められたボトルは再びボトルになる「水平リサイクル」が行われることになったそうです。新しい動きは期待大です。次にコロッケや魚などをのせる発泡トレーですが、これは圧縮機でつぶされて、重さが20kgもあるスチロールの塊として次の再生工場にまわされます。ポテチの袋のよう

なその他プラは、きれいなものだけを選別して圧縮。ベールと呼ばれる直径1mほどの大きなサイコロにして再生現場へと送られます。ベールには抜きとり検査があり、不純物が多いと引き取ってもらえないので、日ごろの捨て方が問われます。

今回の見学では大切な気づきがありました。「質の悪いプラはリサイクルできない（焼くしかない）」という点です。質を上げるために、セ



これは城か要塞か！?



ベール化された包装プラ



人の手あつてのリサイクルでした

イカは水中を優雅にホバリングしたり、体色を一瞬で変えたりと見ていて飽きない魅力的な生きものです。その中でもコウイカの仲間泳ぎ方がゆっくりしていて、じつとして居ることも多く、飼育しやすい種類です。鳥羽水族館では、コブシメとバンダコウイカの2種類のコウイカ類を飼育しています。どちらもおだやかな性質をしています。が、それでも飼育する上で悩まされることがよくあります。

まず、コブシメは餌の確保に苦労します。コブシメは、大きくなると体長が50cmにもなる大型のコウイカです。鳥羽水族館ではコブシメの赤ちゃんを卵からふ化させて、大きくして展示します。生まれたばかりのコブシメの赤ちゃんには活餌のイサザアミを与えますが、稚イカはたくさん食べてぐんぐん成長するため、毎日大量のイサザアミが必要となります。このイサザアミを切らさないようにすることが大変

コウイカ類はここが大変！ こんなことに苦労してます!!

飼育研究部 岩出 祐子

なのです。イサザアミは飼育係が採集しますが、なかなか思うように採れないことがよくあります。購入して対応することができません。餌が、値段が安くありません。そして、こちらにも不漁で採れないときがしばしばあります。そんなときは何とか餌を切らさないように飼育係が何度も採集して調達します。

次にコブシメが順調に大きくなると今度はコブシメが出すスミに悩まされます。普段はおとなしいコブシメも繁殖期は特にオス同士で争います。コブシメは一度に出すスミの量が多く、またアオリイカなどと比べるとスミに粘性があるため、開館時間中に展示水槽が真っ黒で見えなくなることもあります。コブシメが自分の吐いたスミで鰓がつまることもあるので、なるべくスミを吐かないようにオスとメスの比率を調整したり、驚かせないように給餌や掃除をしたりするようになっています。



水中でホバリング中のコブシメ



サンゴの骨格に隠れているバンダコウイカ

一方で、バンダコウイカは成長しても5cmほどの小型のコウイカです。コブシメよりも泳がずじつとしていることが多く、体色を変えて背景に溶け込むことが得意です。小さくて動かないその上隠れるのが上手となると、バンダコウイカで困るのはお客様が見つけにくいことです。今年は大きざ1cmほどの赤ちゃんを展示したので、サンゴの骨格に隠れたイカを見つけるのがより難しくなっていました。お客様に分かりやすく見てもらいたい、でも生きものが落ち着いて暮らせるように隠れ家も入れたい、この2つのバランスをとるのがとても難しい!!

い！うーん、これは生きものを展示する上での永遠のテーマな気がします。ここまでコウイカ類を飼育して大変なことを紹介してきましたが、反対にうれしいのはやはり産卵とふ化のときです。水槽内に産み付けられた卵を発見したとき、卵の中の赤ちゃんがどんどん大きくなっていくとき、無事にふ化したとき、初めて餌を食べたとき、何回経験してもいいものです。コウイカ類の赤ちゃんが生まれたときは今後も飼育日記等で発信していきます！その際はぜひご来館ください!!

もうヘンなヤツとは 言わせない!

第25回

学名のはなし

飼育研究部 森滝 丈也



Akrophryxus acinaces (ツメナガカニノハナチョウチン)
オレンジの球状のメスの体の中に小さなオスがいます。

研究者に熊野灘で採集した未記載種を提供することがよくありますが、自分が採集した生物にどんな学名が付くのか、いつもワクワクします。学名の多くは地名や人名、その生物の形態にちなんで名付けられます。地名であれば、その生物が採集された場所、人名であれば採集者やその生物研究の第一人者の名前など(いわゆる献名)ですが、個人的には生物の形態などの特徴に由来する学名が特に好みます。ただ、ごく限られた文字数でその生物の特徴を端的に表すのはなかなか困難で、結果、推測しないと由来がわからないものも多くあります(記載論文に由来は記述されています)。

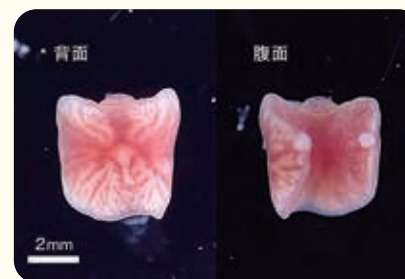
例えば、前回も紹介しましたが、ヒメエンコウガニの触角に寄生する Akrophryxus acinaces は、オスの長く湾曲した指節の形状からアラビア、ペルシャ起源の湾曲した刀(アキナクス)と名付けられたもの。同じ仲間に中世ヨーロッパの楯を意味する milvus (メスの尾節が楯状なので)と名付けられた種もいるので、楯と刀、なかなか洒落た

組み合わせだと感心します。しかし、一見するだけでは、どこが楯やら刀やら全くわかりません。

人名由来の学名としては、例えば、ヒメヒトデの内臓から見つかったスイクムシの一種 Asterionomysosomum monroeae はどうでしょう。monroe はもちろんアメリカの往年の有名女優マリリンモンローで、ピンクの体色とぼつりとした口がマリリンモンローのイメージです(個人的見解)。また、ツノモチダコの腎臓(腎臓)を住処とするニハイチュウの一種 Diogenodaca kuki は、鳥羽周辺で活躍した戦国大名の九鬼義隆にちなみます。ニハイチュウと九鬼氏に特に共通点も関連もありませんが、三重県を代表する名前として提唱されました。ちなみに本種の和名はスイングンニハイチュウで、学名と和名で「九鬼水軍」になるのがミソです。

最後に学名の由来としてはかなりの変わり種をひとつ。それはヒメコウイカの腎臓から見つかった、これまたニハイチュウの Pseudicyema anemophilum (和名カゼノニハイチュウ)。anemophilum はギリシャ

語で「風を好む」の意味で、宿主のヒメコウイカを採集した日がたまたま風の強い日だったことに由来します。採集した天候が学名になった例を他には知りません。採集者の最良目かも知れませんが、憶えやすくお気に入りの学名です。



Asterionomysosomum monroeae (ヒメヒトデスイクムシ)
確かにマリリンモンローの印象を感じました



イカやタコの腎臓から見つかるニハイチュウの仲間

読者のページ

LETTERS FROM READERS

☆読者の皆様からのお便りを、お待ちしております。
鳥羽水族館の思い出、質問、何でも結構です。採用させていただいた方には記念品をお送りいたします。

特集がスナメリ飼育 60 周年ということで TSA を頂きました。とばすいに行くとき必ず裏の海に野生のスナメリがいないか見るのですが、一度も見れたことがありません。今回の TSA を読んで、飼育だけでなく、野生のスナメリの保護や調査にも尽力されているのを知りました。

★井上 泰博さん(神奈川県)

毎年家族で行って楽しませていただいています。スナメリといえばスマホを構えると水槽のガラスに寄ってきてくれるのがとてもかわいく、いつも長時間眺めています。そんなかわいいスナメリを飼育する大変さや人工哺育への挑戦などとても興味深く読ませていただきました。「輪」という名前もとても意味がありいい名前ですね。また、自然界で水族館周辺だけでそんなに死んでしまっているなんてびっくりでした。次回鳥羽水へ行った時は違った見方でスナメリに会いたいと思います!!

★山口 大輔さん(兵庫県)



★垣本 敏尚さん(大阪府)



★高瀬 真帆さん・葵也さん(三重県)

スナメリ飼育の苦労や、飼育員みなさんのスナメリへの愛情がよくわかりました。24 時間体制で赤ちゃんのお世話をするなんて…。愛とチームワークの成せる業ですね。尊敬です。

★山田 まりさん(新潟県)

TSA 表紙を見て「スナメリ!!」気分が上がりました。私は開館したらまずスナメリに会いに行きます。まだ人が少ないガラス面で手を振ったりすると見に来てくれる!!それがすごくうれしくて!!これからも楽しみにしています。

★久野 明子さん(愛知県)

スナメリの赤ちゃんの写真と、人魚姫セレナの写真と、ヒラメとカレイの赤ちゃんの写真がとっても可愛かったです!鳥羽水族館にはまだ行ったことがないので、いつか行ってみたいです。これからもスナメリの飼育を頑張ってください。

★高橋 雛さん(山形県)

お便り・イラスト募集

引き続きおたより・イラスト・写真を募集します。
締め切り: 2024 年 2 月 29 日
【あて先】
〒517-8517
鳥羽水族館 T. S. A. 編集室(住所不要)
メールアドレス: tsa@aquarium.co.jp

鳥羽水族館 モノ語り

NO.36 ちりとり



うと素早く対処ができる。ちりとりで「シャッ!」と水ですくい上げるのは爽快感にも似た心地よさがあり、あつと言つ間に片付け完了!となる。ただし弱点がある、それは床が平らな場所でない、ちりとりはうまく活躍できない。

そうそう、ホームセンターなどのペットコーナーで、このちり通りの形をした道具をみたことはないだろうか。アクアリストが使うちりとりは、本体に無数の穴が空いているのだ。これは、水槽の底砂をすくうときに水を切つて集めやすくする優れものの道具なのだ。ただ水族館で使っているのはあまり見た記憶がない。もしかしたら、水族館で使用するには少し小さいためかも知れない。

よくよく見比べてみると、ちり通りの形もいろいろあつて、使いやすさの具合だつて千差万別だ。私のお気に入り、底が肉厚で手に持った感じ重さがしっかりとしたモノだ。ペラペラのものは、すぐに壊れてしまう印象がある。もちろんこれは飼育スタッフによつても好みが分かれるところではある。

こつとして考えてみると日常的に使用している道具には、自宅でも職場でも大いに助けられている。やはり手に馴染んでいるモノは、使い勝手がよくて、役に立つということなのだろう。

「ちりとり」それは掃除の際「ほうき」と一緒に使うもの、それが一般的な使い方だろう。ほうきで集められたゴミをちりとりで受けて、ゴミ箱へ捨てる。単純な作業ではあるが、ちりとりが「ある」と「ない」とでは、作業に大きな差がある。

小学生のころ、掃除時間になると、ほうき当番かちりとり当番のどちらを受け持つかで、いつももめていた。記憶がやや曖昧なのだが、ほうき当番よりもちりとり当番の方が人気だったと思う。ただそれは、ちりとりがかつこくて、皆が手にしたい道具というワケではなく、単に掃除で楽ができるからという理由だからだった。

大人になった私が水族館で働きはじめたあとも、ちりとりとの関係はぎれていない。むしろその縁は深くなっていると思う。そう、水族館では掃除とは違った場面でもちりとりが大活躍しているのだ。そのシーンをいくつか紹介してみよう。

まず、餌を切る時、いわゆる調餌の際に餌である魚(主にアジ)をまな板の上に切り溜めてゆくのだが、一般家庭のように数匹で調理が終わることはまずない。大きなまな板の上に 10 kg 以上の魚の山が築かれ、それをすべて切り分けていかねばならないのだ。その際ちりとりを使って取り寄せたり、すくったり、集めたりするのだ。予想以上に、ちりとりが活躍するのである。

水族館のバックヤードで(恥ずかしながら)水をこぼしてしまつたりすると、このちりとりが活躍する。もちろん吸水スポンジやぞうきんなど大いに助かるのだが、意外と、ちりとりで水をすく

フンボルトペンギン ルル(メス)・マリン(メス)



ルル

1993年
5月22日
鳥羽水族館生まれ
30歳



マリン

2021年
9月23日
志摩マリンランド
より入館
31歳

言わずと知れた水族館の人気者、「ペンギン」。トバスイのご長寿ペンギンはこのお二方。飼育係のそれぞれの印象は、

ルル…小綺麗で上品なおばあちゃんのようなイメージ。

マリン…高齢での志摩マリンランドからの移動も耐えた、元気なおばあちゃん。

最近「うみ」とペアを解消した様子が見られるが(うみが別のペンギンの方へいって。)特に気にする様子もなくどっしりと構えているそう。基本的には大人しい性格だが、ご飯の時にはわりとアグレッシブな様子を見せる一面も。

ペンギンは一年に一度「換羽」という羽の生え換わり時期があり、換羽はペンギンにとって一年のうちに最も体力を使う大仕事です。特に高齢になると換羽を無事終えられるかがカギとなるので、2羽とも来年の換羽も乗り切ってほしいですね。(※「換羽」について詳しくは号P20をご参照ください!)

ワニガメ(オス)



奇跡の森にひっそりと佇むのは巨大な「ワニガメ」その大きさは他のワニガメと比べても圧倒的です。入館して30年以上になるとのことで、日本で飼育されているワニガメの中でも大きい方ではないかと言われています。大きすぎるからかバツと見ただけでは岩と間違えて気づかず素通りされてしまう。そんな彼ですが、エサは月曜と金曜の週2回で、食欲旺盛な時はアジを一度に10〜20匹ほど食べ、豪快な姿を見せてくれることも。遭遇出来た方はラッキーですよ!

ヒゲツノザメ(メス)



1990年
12月29日
入館

国内で飼育されているヒゲツノザメとしては最高齢で、志摩市沖にてはえ縄漁船が捕獲した個体です。深さ100メートル以上の深海で暮らすため、捕獲されるのは珍しく、飼育している園館も少ない為、詳しい生態や寿命がまだよくわかっていない謎多きサメです。エサは週3回で、イカやアジを食べます。同居するタカアシガニや小魚を襲うことはなく、大人しく、動きもゆっくりとしています。Eゾーン「伊勢志摩の海・日本の海」で会えますよ。

鳥羽水族館のご長寿さんたち

企画広報室 村上 真美

鳥羽水族館では今年もスナドリネコやコツメカワウソ、イロワケイルカ、スナメリの赤ちゃんなどたくさんの新しい命が誕生しました。赤ちゃんの話題は注目されがちですが、飼育種類数約1200種のトバスイにはその他にも様々な生きものがあります。そこで、今回は水族館を見守り続けてきたご長寿さんたちにスポットを当ててみることにしました!

バイカルアザラシ ナターシャ(メス)



2023年
5月17日
入館42周年

ご長寿といって外せないのがバイカルアザラシの「ナターシャ」。国内最高齢のナターシャは、現在長期飼育記録を更新中です。推定0歳で入館し、入館当時は体重:13.2kg、体長72cm、だったのが現在は体重:約70kg、体長:約105cmで、毎日アジ・シシャモ・ホッケなどを食べて、食欲も衰えることなく元気に過ごしています。性格は気が強くボスの存在ですが、他の子に先に餌をあげていると、ヨダレが出てくるというお茶目な一面も。毎年、入館記念日にはお祝いにアユをプレゼントしており、大きな目をひときわまん丸にして食べる様子が印象的です。そんなナターシャ、推定7歳の時に重い感染症にかかった過去があ

り、当時は飼育係も心配しましたが、無事に回復、病気に打ち勝ちました。

バイカルアザラシの寿命は50年〜60年といわれていますが、寿命にとらわれずまだまだ元気に過ごしてほしい限りですね。

ナターシャのびっくり!?エピソード

ナターシャが若かりし頃のある朝、飼育係が見回りに行くとナターシャが水にプカーッと浮いたまま全然動く気配がない…昨日まで元気だったのにまさか…慌てて水槽の中に行くとナターシャの様子を伺おうとツンツンしてみると、その勢いで抵抗も無く動いていったようで「ああ、もうダメか…」と思ったその時、何事も無かったように動き出すナターシャ。どうやら水に浮かんだまま寝ていたようで、その後も元気に餌を食べ、一安心。少しお騒がせなエピソードでした(笑)

スナメリ 勇気(メス)



1985年
4月17日
鳥羽水族館生まれ
38歳

名前からオスと間違われることが多いが、優しい表情が特徴の女の子のスナメリ。スナメリ担当のベテラン飼育係が実習生の頃に鳥羽水族館で生まれたということで、まさに大先輩!両目の周りが黒っぽく少し眠たそうな表情に見えるところもかわい勇気おばあちゃん。サッカーが得意で他のスナメリはヘディングで遊ぶことが多い中、尾びれを上手にを使ってプールサイドにボールをあげるができるのは勇気だけなのだとか。現在はバックヤード水槽でのんびりと暮らしています。

CLOSE UP

コツメカワウン「キワ」が二回出産



コツメカワウンのキワが5月23日・24日に四頭を出産しましたが、子育てがうまくいかず、二頭は死亡、二頭は人工哺育となりました。

その後、9月7日にも四頭を出産しました。一頭は死産、三頭はキワが育てていましたが、11月15日に死亡しました。現在、死亡原因を調査中です。

5月生まれの二頭は7月24日に一般公開され、元気に暮らしています。(山本)

イロワケイルカに赤ちゃん誕生

2023年6月21日にイロワケイルカのステラが赤ちゃんを出産しました。何事もなく無事に生まれ、ステラはしっかりと育児をし、仔はすくすくと育ちました。最近では授乳も少なくなりシシャモを食べる量がどんどん増えています。



また、同居しているララにちよっかいをかけたりと、日々成長を感じています。そして、今年も名前募集も行い、たくさんの方の応募の中から「コスモ」に決定しました。みなさま素敵な名前のご応募ありがとうございました。(大西)

夏の企画展「ぼのぼの×鳥羽水族館 ぼのぼのとフシギな夢夏祭り」を開催

7月15日〜8月31日に夏の企画展を開催しました。「ぼのぼの×鳥羽水族館」コラボSPECIAL EXHIBITION「第一弾として、ぼのぼのの夏の夏祭りをイメージし、ぼのぼののキャラクター達が店主となった屋台では、その屋台にちなんだ生きものを展示しました。花火コーナーでは、壁に触れたらキラクターの花火が上がり、輪投げコーナー等も設置し、多くの方に楽しんで頂けました。(北)



スナメリ飼育60周年記念企画「スナメリキャンプ」を開催

鳥羽水族館では2023年9月30日に、スナメリ飼育60周年を迎えました。それに伴い、水族館のお泊まり企画として2日間のスナメリキャンプを行いました。

た。野生のスナメリ探索ツアーや夜の館内ツアー、飼育員によるレクチャーに給餌体験など内容は盛りだくさんでした。



30人という限られた人数ではありませんでしたが、スナメリの魅力を目一杯お伝えできた2日間となりました。このキャンプを通して、スナメリに興味をもつきっかけになってくれたら嬉しいです。(南)

ラッコ飼育40th Anniversaryを開催

2023年10月3日、鳥羽水族館がラッコの飼育を開始してから40周年を迎えました。そこで10月1日は、2頭のラッコに40周年記念アイスクリークをプレゼントし、10月3日・8日・22日は、飼育開始から40年間ラッコ飼育に携わっているベテラン飼育係によるお話し、15日・29日には、



ラッコの飼育設備を紹介するバックヤードツアーを行いました。また、同時に販売した40周年記念BOOK(一般の皆様が撮影した写真も一部掲載)を制作するにあたり募集した皆様の写真展示も行いました。(世古)

=編集後記=

いろいろな雑用とスナメリ人工哺育でヘトヘトです。早く自由になりたい…(若林)

皆さんはUFOって見たことがありますか？私はないです。夢の中ではみたことがあるんですが…。どこに行けばいいですか？(高村)

今号で編集委員を卒業することになりました。フロントエッセイを長らく書かせていただいたのがありがたかった。ありがとう〜！(高林)

歳を取っても昔の思い出を見返すことができるように、色々記録するのが楽しいな今日この頃です。(井上)

近頃ラッコが人気すぎるトバスイ。もちろんかわいけれど、私的推しのアイドルはジュゴンの「セレナ」。日本で会えるのこだけでっせ〜(村上)

あっという間に2023年も終わり！年々、1年が短くなってきた感じがします。2024年も、皆様にとって生きものにとって、良い1年になりますように！(青倉)

次号 No.85 は 6 月下旬発刊予定

TOBA SUPER AQUARIUM
2023 冬 No.84

発行人／若井 嘉人

発行所／鳥羽水族館

〒517-8517 鳥羽市鳥羽3-3-6
TEL 0599-25-2555

編集長／若林 郁夫

編集委員／高村 直人
高林 賢介
井上 まゆこ
村上 真美
青倉 七雲

印刷／(株)アイブレーン

© 本誌の掲載記事、写真等の無断複写複製転載を禁じます。

みんなの地球を大切に！
この本は再生紙を使用しています。



© TOBA AQUARIUM

TOBA SUPER AQUARIUM

出来事

2023年5月〜10月

5月

- 3月17日〜5月7日 ●春の企画展「大集合！十匹十色の赤ちゃん展！」を開催
- 9日 ●ラッコ「メイ」19歳の誕生日、アイスクリークをプレゼント
- 11日 ●新米社員による田植えを田んぼ水槽で行う
- 17日 ●バイカルアザラシの「ナターシャ」入館42周年
- 23日・24日 ●「コツメカワウン「キワ」に赤ちゃん誕生
- 25日 ●スナドリネコの赤ちゃんの愛称が「メオ」「プサ」「チマ」に決定、一般公開を開始
- 26日 ●コツメカワウン「はな」をときわ動物園(山口県)に搬出
- 26日 ●カリフォルニアアシカ「きいと」を高知県立のいち動物公園に搬出
- 31日 ●セイウチ「ツララ」14歳の誕生日にフィッシュケークをプレゼント

6月

- 1日〜8月31日 ●カエルとイモリの天気予報を実施
- 1日 ●鳥インフルエンザ感染予防のために中止していたペンギン散歩を再開
- 14日 ●コツメカワウン「こんぶ」をアドベンチャーワールド(和歌山県)に搬出
- 21日 ●越前松島水族館よりミズダコ2匹搬入
- ★イロワケイルカ「ステラ」に赤ちゃん誕生

7月

- 12日 ●スナドリネコ「ジェル」を東山動物園(愛知県)に搬出
- 15日〜8月31日 ●夏の企画展「ぼのぼの×鳥羽水族館」を開催

8月

- 15日 ●台風の接近により営業時間を13時〜17時30分に短縮
- 24日 ●「ぼのぼのとフシギな夢夏祭り」を開催
- 18日 ●セイウチふれあいタイムで海の事故0キャンペーンをPR
- 18日 ●スナドリネコ「ムーン」を高知県立のいち動物公園に搬出
- 24日 ●コツメカワウンの赤ちゃんの愛称「がれん」と「つくし」に決定、一般公開を開始

9月

- 1日〜10日 ●カエルとイモリの天気予報結果発表
- 1日〜30日 ●スナメリ飼育60周年記念企画パネル展
- 2日 ●市民参加の避難訓練を実施
- 7日 ●フンボルトペンギン「リリ」死亡
- 7日 ●コツメカワウン「キワ」に3頭のメスの赤ちゃんが誕生
- 20日 ●カリフォルニアアシカ「きいと」が搬出先の高知県立のいち動物公園で死亡
- 23日〜24日 ●スナメリ飼育60周年記念企画「スナメリキャンプ」

10月

- 1日〜31日 ●ラッコ飼育40th Anniversaryを開催
- 1日 ●ラッコ飼育40周年記念アイスクリークをプレゼント
- 3日・8日・22日 ●ベテランラッコ飼育係のお話し
- 8日 ●スナメリ「ココロ」に赤ちゃん誕生
- 15日・29日 ●ラッコ飼育の裏側に迫る！特別バックヤードツアーを開催
- 17日 ●鳥羽水族館オリジナルカレンダー発売開始
- 19日〜31日 ●イロワケイルカの赤ちゃん愛称募集期間
- 26日 ●アメリカカビバー「エヌ」死亡

鳥羽水族館 スケジュール (2023年12月1日現在)

1月

2月

3月

4月

5月



イメージ

お正月イベント!

~いつも上向き~
幸せ運ぶラッコ神社
期間: 12月30日(土) ~
2024年1月7日(日)

キラメいて☆
ぼのぼのと海のお花ばたけ
期間: 2024年3月16日(土) ~
5月6日(月・振)



©いからしみきお/竹書房・フジテレビ・エイケン
©TOBA AQUARIUM

■詳しい日時についてはホームページでご確認ください。なお、動物の健康状態などにより変更や中止の場合があります。

クイズ&プレゼント Quiz & Present

Q.1984年、初めて鳥羽水族館で生まれたラッコの名前はなんでしょう？

- 1: チャチャ
- 2: プック
- 3: モコモコ

ヒントは
特集ページに
あるよ!

正解者の中から抽選で3名様に「ラッコメモリアルBOOK」をプレゼントいたします。クイズの答え、住所、氏名、電話番号、感想をご記入の上、ご応募ください。

締切は2024年2月29日(必着)で、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

あて先: 〒517-8517 (住所不要)
鳥羽水族館 T.S.A. 編集室



定期購読
方法の
ご案内

郵便払込み(青色用紙)でお申し込みください。

加入者名: 鳥羽水族館 T.S.A. 編集室
口座記号番号: 00890-7-188305

料金

1年分 420円、2年分 840円です。
通信欄に氏名、住所、電話番号、何号からの購読希望か、購読期間は1年か2年かをお書きください。

【動物取扱業に関する表記】

鳥羽水族館: 三重県鳥羽市鳥羽 3-3-6 種別: 展示 志摩第18-1号 2006年6月1日 登録更新: 2021年6月1日 有効期間: 2026年5月31日まで 動物取扱責任者氏名: 長谷川一宏